

地域公共交通会議 議事録

平成 27 年 2 月 9 日 14 時～
寒河江市役所 1 階 会議室

○委嘱状交付式

会議開催に先立ち、人事異動、改選等で新たに委員となる地域公共交通会議委員へ委嘱状の交付。

○地域公共交通会議

会 長 (寒河江市副市長) あいさつ

【報 告】 (1)地域公共交通調査事業の経過について

【事務局】 【資料 地域公共交通調査事業経過報告書により説明】

【議 事】 (1)予約制乗合タクシー「山形空港ライナー」の運行内容の一部変更について

【事務局】 【資料 1 により説明】

・運行地域について別紙 1、2 の営業区域図により、追加する指定乗降所及び路線について説明。

・山形空港ライナーの運賃について、これまで運行路線によって定められていたものを、空港とさくらんぼ東根駅を結ぶ路線を除いて定額となる旨説明。

委員 A 運賃の改正について、大幅に安くなるようだが、採算性というか、その分についての山形空港利用拡大推進協議会の負担の増というものはあるのか。

【事務局】 山形空港利用拡大推進協議会の中で、協議会の負担が増えるということについては合意がなされている。協議会の構成員となっている県や市町村において、昨年の羽田便の 2 便化や名古屋便の再開などに対し強力にバックアップしていく体制となっており、このような形となった。

委員 B 空港ライナーの寒河江市民の利用状況と今回の改正でどの程度の利用増を見込んでいるのか。

【事務局】 市内の利用状況については、利用拡大推進協議会からの資料により、平成25年度は運行回数が104回で利用者は113名。平成26年度は4月～9月の上半期の実績で運行回数が114回で利用者は122名。羽田便の2便化と名古屋便再開により平成25年度の倍のペースで利用されている。利用者は寒河江市中央工業団地からの利用が多く、次いで駅からの利用もある。どの程度利用が増えるかについては、推進協議会に確認していきたい。

委員C 慈恩寺第1駐車場まで行くとのことだが、かなり狭い道を通ることとなるが運行する車両などどのようなになるか。

【事務局】 運行する車両については、万が一利用者が多い場合はワゴン車での運行も有りうるのかと思うが、基本の普通車の一般タクシー車両。地域の方にも協力をお願いしたい。

委員C 地元から理解はしてもらっているのか。

【事務局】 慈恩寺の観光振興会とは協議が済んでいる。地区全体については、今後の会議等で協議をしていきたい。

委員D 利用者数については、決して多いものではないが、協議会への市の財政負担はどの程度となっているか。財政負担分だけの効果はあるのか。

【事務局】 協議会への負担額を調べて報告させていただく。

議 長 額については後程報告いただくということでお願いします。他に御意見・ご質問ありますか。

無ければ、ただ今の予約制乗合タクシー「山形空港ライナー」の運行内容の一部変更について、提案のとおりとさせていただいてよろしいでしょうか。

異議なしの声

議 長 それでは、承認とさせていただきます。

(2)寒河江市生活交通ネットワーク計画（案）について

【事務局】 事務局に代わって調査受託者による地域公共交通調査結果と寒河江市生活交通ネットワーク計画素案の説明について許可を求める。

議 長 お願いします。

【事務局に代わり調査事業者】 【資料2により説明】

委員E アンケート調査について、1200名に送付して500票ほどの回答を得たということだが、その中で利用者が何を求めているか、お客様の声というものは調査しなかったのか。

【事務局】 今回の資料には盛り込んでいないが、アンケート調査にはどのような改善要望があるかについて聞いている。具体的には、最も多い要望としては、バスの運行本数を増やしてほしい、運賃にたいするもの、バス停を目的地の近くにおいてほしい、バスの待ち時間を短くしてほしいなどの意見が上位となっている。この部分については、計画の中には、今後記載していきたい。

委員E 利用者からの視点が無いと、利用しやすい交通というものはできてこないと思う。5年後、10年後に自分で運転できなくなったときにどうするのかという声を聴き、利用者を増やし、また行政の負担も少なくしていく方向が良いのでないか。

議 長 市民からどのような意見があったのか、資料に盛り込んでもらいたい。

【事務局】 資料25pで意見交換会の際いただいた意見を記載しているが、アンケートでいただいた意見についても記載していきたい。

委員F 路線バスの乗降調査について、9月24日～9月27日に実施したということだが、冬期間はバスの利用が増えるという状況がある。四季ごとに調査を行えば、より実態を反映した調査結果となるのではないか。

委員 G

本数を増やしてほしいとの意見があったということだが、その中でこの時間を増やしてほしい、もっと遅くまで運行してほしい、早く運行してほしいという要望はなかったのか。利用する側としてより使いやすくというニーズがあるのではないか。こう在りたいという理想は分かるが、そういったニーズがわからないと、どのようにしていくか判断できないのではないか。

【事務局】

冬季の調査については、計画策定までのスケジュール上、今回は難しい。高校生であれば冬期間は自転車で移動できないから需要が上がりますし、高齢者であれば逆にバス停までいけないのでタクシーの需要が上がるということを意見交換会などで聞いております。ご指摘の通り、寒河江市は降雪地帯であるので、冬期間の需要の変化は考慮していかなければならない。29p で 1 行だけが触れている。重要なことであるので、計画を取りまとめていきたいと考えている。

運行時刻の問題についてだが、アンケート調査の中でどのような時間にどのような目的で出掛けているのかを調査している。その中で 26 p になるが、通院の頻度・時間帯や買い物に行くの頻度・時間帯について把握させていただいている。このニーズに合った運行の計画、実際のダイヤなどを組み立てていくことになると思う。また、アンケートの中で細かくこの時間帯を増やしてほしいという回答もいただいているので考慮してまいりたい。

委員 H

アンケートの対象者は無作為で抽出したということだが、その回収は 40% ということで、半分も提出されていない。また、8 地区の高齢者サロンで意見を聞いたということだが、対象者 75 歳以上となっていると思う。その場合、本人が使わなくても必要だという意見となっている場合も有る。高齢者になってしまった方でなく、団塊の世代など、今後高齢者となる方にどのような公共交通を望むのか、年代を特定したアンケートをとれば、具体的な改善点など違う結果が出てくるのではないか。結果的に利用者が少なければ、市の財政負担が増えてしまうだけとなるのではないか。

【事務局】

アンケート回答をいただいた方は、約 4 割が 65 歳以上であった。その中の 1 / 4 が 75 歳以上で、団塊の世代がどのようなものを望むかということは、計画策定の上で考えて行かなければならない視点の一つであるが、一番の交通弱者は後期高齢者であると考えており、例えば徒歩の速度で言

例えば、一般成人が時速 4 km に対し、後期高齢者は時速 2 km が平均である。バス停まで行くにしても、同じ距離で倍の時間がかかる。団塊の世代については今後 10 年間で後期高齢者となっていく。バス停まで行くまでにそれほど歩かなくても良いシステム作りを考えているところです。改めて団塊の世代にアンケートを聞くということは出来ないが、今回のアンケートの分析において、その年代だけ抽出するという事は可能なので、年代により特徴的な意見となっているようであれば計画に反映させていきたい。

委員 H 団塊の世代の人口が日本の中でも最も多い世代となっており、現在の後期高齢者は、団塊の世代が面倒を見ている状況。今後の高齢化社会においてどのようにしていくか、という視点が必要。団塊の出代が後期高齢者となった時、下の世代の人口は少ないという状況となって、どのような公共交通が必要か。今のデータで分析できれば分析していただき、できないならば団塊の世代に意見をきいてほしい。

委員 I 交通事故の問題で高齢者の事故が多くなっている。いつ免許証を返還していくのか。その視点をこの会議で持っていくべきでないか。公共交通機関が便利にならないと、いつまでも自分で車を運転しなくてはならない。安心して免許証を返還して公共交通機関を使える環境を整備していかなければ、免許証の返還につながらないのでないか。

【事務局】 42 p の公共交通の利用促進・環境改善の中の 2 つ目に記載しておりますが、免許返納を進めて行くには、返納者に対し多少のインセンティブを与えていくことも必要であると考えております。公共交通の利用を推進するための取り組みと、公共交通の環境改善を併せて行うことが必要であると考えております。

委員 J 17 p にあるとおり、9 割以上の方が公共交通を利用しない状況となっている。寒河江市はバスの本数もそれなりにあり、JR もある。公共交通的には割と恵まれている状況であるにも関わらず、9 割以上が使っていない。使っていない理由は、不便だからではなく自家用車で移動するからである。今後の施策で循環バスなどの施策を挙げているが、新しい交通サービスを導入しても結局使わないということになるのではないかと。委員の皆さんからも、財政負担を増やし新たなサービスを行っても利用者が増えないのではないかと懸念があるということを行っているのではないかと。バスの便数を増やす等の要望に対して応えていないという気もする。

【事務局】 市内公共交通が合理的な中で、利用されていないという現実の中で、新しいサービスを導入しても利用者も増えず単に財政負担だけが増えるのではないかという指摘だと思います。計画策定にあたって、まだ交通空白地域が残っている状況で、その地域をどの様にカバーしていくかということが、計画のスタートとなっている。それ以外に地域に入って意見を聞いていく中で、路線バスはしっかり走っているが、バス停まで距離があって使い難いという意見をいただいている。交通空白地域とこのバス停から多少遠いという方を併せてカバーできる方法が無いかということで、今回施策を考えている。その一つの方法が空白地帯と中心部を結ぶ循環バスであり、デマンドタクシーの再編ということである。デマンドタクシーの再編については財源はそんなに増えないと思うが、循環バスの導入については、新たな財政負担が発生することになる。そのため、特に循環バスについては、どの程度の利用が見込めるかなど慎重に検討して行かなければならない。循環バスを入れることになれば、更なる調査を行い、実験的な運行し、継続するかというから考えていきたい。現在の交通資源を有効に使うということでタクシーチケットの部分も盛り込ませていただいた。

議長 その他、質問・意見はないでしょうか。いただいた意見を今後どのように反映させていくのか、事務局から説明を求めたい。

【事務局】 いただいた意見を踏まえ、計画（案）について調整を図っていきたい。特に大きな変更を求める意見は無かったと思われまます。詳細や具体的な事項を表示していくなど修正を、委員の皆様から会長に一任いただくよう事務局からは提案させていただきたい。修正を行った計画（案）については、委員の皆様を確認いただいた後パブリックコメントの手続きを行っていききたい。その後3月末にこの会議を再度開かせていただき、計画として立ち上げていければと考えております。

議長 事務局から今後の進め方について説明がありましたが、計画策定までの日程が厳しいということから、計画（案）の見直しについては私に一任をいただきたいという提案でした。書面により地域公共交通会議を実施し、委員の皆様から確認いただきパブリックコメントの手続きを進めたいと考えますが、意見等はございますか。

なしの声

議長

意見等が無いということですので、計画（案）の修正を私が行わせていただきます。

【事務局】

（３）その他に入る前に、先ほどいただいております寒河江市が山形空港利用拡大協議会に負担している金額について 254 千円でございます。そのほか、県や他市町村、空港での PR 活動など力を入れてやっているところ
です。

（３）その他
なし

出席者 (委員 15名出席(内代理出席 3名)、事務局6名出席、調査事業受託者2名)

寒河江市公共交通会議委員	団体名等	職名	代理者等
	寒河江市	副市長	
	山交バス(株)	寒河江営業所長	
	中央タクシー(株)	営業部長	
	寒河江タクシー(株)	取締役総務部長	
	(社)山形県バス協会	会長	代理 専務理事
	山形県ハイヤー協会	専務理事	
	地区町会長連合会長A		
	地区町会長連合会長B		
	区長C		
	東北運輸局 山形運輸支局	首席運輸企画専門官	
	東北運輸局 山形運輸支局	首席運輸企画専門官	
	総合支庁西村山道路計画課	課長	代理 課長補佐
	寒河江市建設管理課	課長	
	寒河江警察署	交通課長	代理 係長
	西村山地域振興室	室長	
事務局	寒河江市	事務局	
	寒河江市	市民生活課長	
	寒河江市	健康福祉課長	
	寒河江市	政策推進課課長補佐	
	寒河江市	政策推進課政策企画係長	
	寒河江市	政策推進課政策企画主任	
地域公共交通調査事業受託事業者		支社長	
		担当者	